

令和7年度富山県民生涯学習カレッジ運営会議議事録

- 開催の日時 令和8年2月19日(木) 10時～11時30分
- 開催の場所 富山県教育文化会館 505 会議室 (ハイビジョン学習室)
- 運営委員総数 17名
- 出席運営委員 16名
荒井克博、上埜真知子、打越山詩子、遠藤直孝、大島久和、神川康子、
清原明宏、澤木昇、下坂佑佳、塚崎志津江、寺山収、東仙敏彦、本田正則、
藤田公仁子、堀田紀子、八十島元一

1 会議の概要

(1) 本江学長開会の挨拶(要旨)

- ・カレッジの運営委員は、本年1月から新たな2年間の任期が始まったが、皆さん快くご承引いただきお礼申しあげる。
- ・県民カレッジの運営に関し、皆様方からいただいたご意見を今後の県の生涯学習の振興のために活かして参りたいので、忌憚のないご意見を頂戴したい。

(2) 会長選出

- ・事務局から富山県民生涯学習カレッジ条例施行規則第5条第3項による会長の選出について、慣例に基づき「富山県生涯学習団体協議会会長」の荒井委員を会長に選出することが提案された。全員異議なし。
- ・荒井委員が会長に選出され、以降、荒井会長が議事進行。

(3) 職務代理者の指名

- ・県民生涯学習カレッジ条例施行規則第5条第5項に基づいて、会長が本田委員を指名。

(4) 協議内容

会長が、「令和7年度実績、令和8年度予定」について事務局に説明を求める。

事務局が資料に基づき説明を行った。

会長が、「富山県民生涯学習カレッジの運営に係る現状と課題」について事務局に説明を求める。

事務局が資料に基づき説明を行った。

①会長が、現状と課題「1 学習情報の収集・提供と学習相談への対応について」意見、質問を求め、概ね以下のような発言があった。

(委員)

- ・「学習情報提供のアクセス数について一般情報の値に機械的なアクセスによる

異常があった」と説明があったが、カレッジのホームページ、公民館学遊ネットのアクセス数に関しては、機械的なアクセスの影響がなく、実際のアクセス数と考えてよいか。

- ・今後の一般情報の集計方法は、変更したやり方でこれからもやられるのか。

(事務局)

- ・今回の一般情報の件数は、グーグル社のグーグルアナリティクスを使いカウントした。これまでは、とやま学遊ネットの機能としてあった集計方法を利用して実績を出していたが非常に不自然な大きな数字が出たので、今回からグーグルアナリティクスを使い、機械的なアクセスによるものを省いた。
- ・カレッジのホームページ及び公民館学遊ネットの集計は、もともとアナリティクスで行っていたので、変更はない予定である。

(会長)

- ・公民館学遊ネットの利用者も随分増えているが、何か利用上の課題、或いは成果などはないか。

(委員)

- ・全国的に県下の全ての公立の公民館が、ホームページを作っている県はまずないと思う。これは、すごくありがたいことで、公立 322 公民館あるが全てが同じ形式でホームページを作ることが出来る。また、この情報をとやま学遊ネットで情報発信をするとともに県の公民館連合会のホームページもこれらの情報と一緒に作らせていただいている。ありがたいことである。
- ・課題は、一般の方々や地域の方々がこのとやま学遊ネットのホームページを見ていただけるかどうかである。現在、公民館職員にも「対面プラスデジタル」ということを3年間の講座等を通して、知識をつけていただいた。各公民館では、ホームページに繋がるようなQRコードで案内をしたり、インスタを使ったりして取り組んでいる。今後も多くの方に見てもらえるように取り組んでいきたい。

(委員)

- ・県民カレッジホームページの課題としているのは、「使い勝手が非常に悪い」「掲載をしている情報が古い」とのことであるが、この対応として、アクセス数の集計だけでなく一般的なマーケティング手法を使ってはどうか。例えばホームページのアクセスについて滞在時間やどのページから入っているか、或いは離脱する時間がどうかというのを確認する。これは一般的にホームペ

- ージを使いやすくするための手法の 1 つなので、ぜひ、プロバイダーからこのようなデータを収集し、それを分析するとより課題が見えてくると思う。
- ・大事なことは、情報の更新を適時行うこと。しっかりやっていただきたい。

(事務局)

- ・とやま学遊ネットも更新の時期を迎えている。いただいた意見を参考にしながら、より使いやすいホームページを設計し、情報提供をしていきたい。
- ・情報更新も毎年、分野を決めながらやってはいるがなかなか追いつかない状況である。新しい情報は、今後もしっかり載せるようにしていきたい。

②会長が、現状と課題「2 多彩な学習機会の提供について」意見、質問を求め、概ね以下のような発言があった。

(委員)

- ・今年度から始められたこどもまんなか教室の募集チラシを見ると楽しそうやってみたいなって思うものがたくさんあった。ただ、説明を聞くとあつという間に締め切られたということで、その子どもたちの学びたい気持ちにちゃんと応えることができたか心配になった。締め切り後の状況はどうであったか。
- ・今年度から新しい企画として、子どもたち及びその親世代を対象とした企画をし、そして参加した様子をどのような形で発信したのか。

(事務局)

- ・こどもまんなか教室に関しては、それぞれ 10 組限定ということもあり、あつという間に定員に達した。実際の申し込みは、ネット及び窓口での申し込みの対応をしており、受付開始日の午前中に埋まってしまうような状況もあり、すぐにネットで受付終了の情報を流した。その後、問い合わせもあったが、ネットを見られて状況を理解した方も多くいたと思う。
- ・子どもを含めた講座の場合、10 組限定という小規模な企画になるのは、企画運営上やむを得ない。この点は非常に申し訳なく思う。来年度は、各地区センターでもう 1 講座増やして対応する。よい企画を行い、申し込んでくれた方々には、満足してもらえよう進めたい。
- ・子どもたちの様子は教育関係記事として新聞等に掲載してもらった。
- ・親世代に対し、X などの SNS を中心に PR はしたが、検索につながったか等は不明である。親世代への発信は、十分出来ていなかった。

(会長)

- ・子どもの頃から、生涯学習に触れるという機会を推進してほしい。将来にとって大事なことだと思うので、ひと工夫してほしい。

(委員)

- ・子ども、親御さん対象の企画、体験会というのを、私自身も自分の職場でやった。どうしても親子で体験するとなると大型講座のようにたくさんの人を一度に集めることは難しい講座になってくると思う。今回の企画を10組程度でやられたっていうのは、適正な人数でやられたと思う。7年度の状況を踏まえ8年度の講座を2回から3回へ増やすということは、素晴らしいと思う。講座は、ただ回数を増やしていくことでニーズを満たし、満足度を上げられるものでなく、同じ内容を繰り返すだけでもいけないし、子どもの成長もあるので、内容をいろいろ考えながらやっていかないといけない。企画の検討も継続してほしい。
- ・現役世代は、日頃、働いていて、その中で学習する時間を作ることは難しいと思う。そのような人たちを引きつけていくための工夫といってもなかなか大変なことだと思うが、これからも努力を続けて、ぜひ多くの県民の皆さんにいろいろな機会を提供してほしい。

(委員)

- ・現在、生涯学習を子どもも対象と新しい取り組みをやっておられるとのことであるが、実際の生涯学習として取り組んでいる者の年齢層でいうと、ほとんど60歳、70歳以上である。リカレント教育というのもニーズが高い。
- ・私自身40年間、県外でサラリーマンをしており、その時古代史に興味を持ち、趣味として30年間学んだ。退職する65歳の1年前に、誰かに教えたいと思い立ち、人に教える機会を持つことが出来る自治体を調べたところ、2019年当時、全国で富山県だけだった。富山県の自遊塾は、大学教授などではない一般の人でも教える立場になれるという貴重な場である。
- ・これまで自遊塾の県民教授を8年間続けているが、たくさんの受講者の方と学び合いが出来て、今が一番幸せである。県民教授として、受講者にどのように教え、満足度をあげる講義をするかということばかりいつも考えている。
- ・自遊塾の終了後のアンケートを職員が回収し、どのような活用をしているのか教えてほしい。県民教授にもアンケート結果を共有してもらいたい。私は、アンケートの結果が気になるので、自分で回収して読ませてもらってから提出している。講義をよりよくしていくためには、アンケート結果は非常に大事である。

(事務局)

- ・アンケートは、講座の終わりに県民教授に回収していただき、県民教授自身にもアンケート結果を直接見ていただき、提出してもらっている。アンケート結果のとりまとめには時間はかかるがカレッジ事務局で集計し、年齢層、希望している内容、地区ごとの要望等の傾向を分析している。この結果も踏まえ、次年度の自遊塾の開講方法を検討している。県民教授の皆さんへアンケート結果の提供については行っていなかったもので、今後は情報提供や一緒に考えるような機会を作るなど検討してまいりたい。

(会長)

- ・難しい要望ではないと思うので、事務局で対応をよろしく願いたい。
- ・自遊塾は、確か平成7年に16講座で始まり、約30年経過し、現在86講座と拡大している。本県が誇るべき生涯学習活動の1つだと思っている。ぜひ願いたい。

(委員)

- ・私自身が子育て中の親で、現在感じていることは、親同士の繋がりというのがどんどん薄れていること。特にコロナ禍以降すごく感じている。この状況の中、新しいこどもまんなか教室が始まり、親同士が触れ合うよい機会であり、事業内容も素晴らしい。受講者枠が10組では少ないので増やしていただきたい。
- ・PTAでも簡単にできるような内容のものを推進し、PTAでもやらせていただくという場を提供してくださると嬉しい。

(委員)

- ・特に最近では、全国でいろんな講演をさせていただいているが、オンライン、リアル対面型といった開催や受講される方のニーズ等が多様であると実感している。このような状況で、人数や講座数だけを増やすことを最優先に考えるだけでなく、講座の質も重要であると考えている。1つ1つの講座にどれだけの満足度があったか、受講者がしっかりと学び、将来、もっと学びたいと思うか、例えばそれがライフワークになっていく人もあるかもしれない。このような点も確認できればと思う。
- ・最近では、テーマ設定で受講者の飛びつき方が大きく違うということを感じている。世の中が日進月歩で目まぐるしく非常に早く変化していくので、この流れを踏まえ、従来の講座も必要、また新しい講座も必要である。
- ・先日とても驚いたのは、ネット社会に対するネット依存防止対策講座を子ども対象でやったのに、子ども150人に対し、保護者が200人以上も来られたと

いう企画があった。このように企画によっては、子どもが大人を連れてくるものがある。現在、高齢者をターゲットとした企画が多いが、これを多様な世代と一緒に講座に参加できるようにしてはどうかと思う。

- ・最近大事にしているのは、対面型の少人数の企画で、特に対面相談型はものすごく満足度が上がるということを実感している。以前 100 人、300 人を対象として話していた講座では、満足度がよく分からなかったが、10 人 20 人で相談を受けるといって講座をすると、ほぼ 100% 近く自分の話を聞いてもらえたと感じ、双方向で聞いてもらえたという満足度がある。最近は多様なニーズがあるので、開催の仕方も含めて、バラエティーに富んだ開催方法がよいと思う。
- ・先ほど古い情報を更新していくという話が出たが、古いからといって削除していくと、過去のいい情報もなくなってしまう。これらの取捨選択は慎重にやっていただきたい。

(会長)

- ・課題の 1 つに現役世代の受講者を増やす、若い世代の方々の参加を増やしたいとあるが、まずは意見があった小、中、高生の親御さんを対象にし、工夫していただければと思う。
- ・60 代 70 代の高齢者を対象としたものが多いのではという意見もあるが、現在、高齢者の方が多く人口の半分ぐらい高齢者といっても過言ではない。高齢者が元気であること、その元気な姿を若い世代に示すことで、それがまた、県の活気活性化に繋がると思うので、従来通りの高齢者対象の講座も一段と充実してほしい。

③会長が、現状と課題「3映像による学習支援について」意見、質問を求め、概ね以下のような発言があった。

(委員)

- ・映像センター課から今年 6 月の公民館主事の新任研修会で 20 分間、講演いただいた。参加者は県下 15 市町村から 80 人ほどで、「視聴覚教材活用のすゝめ」というテーマで、「見る、借りる、作る」という 3 つのポイントに分けての内容であった。資料も分かりやすく、映像センターの教材一覧も全員に配っていただいたので、参加した初心者にとっては、実際の事業を企画する際の大きなヒントになったと思う。
- ・DVD の貸出期間を 1 週間から 2 週間に変更していただいたことにより、実際に活用された公民館が増えたと聞いており、非常によかったと思う。
- ・ホームページにも、カレッジより依頼があつて 1 月の映画無料上映会の PR を

載せたり、2月、3月の映像工房利用の体験会、ビデオテープをDVDにしませんかというPRをしたりした。公民館への周知等があれば、今後も情報の提供をしていただければと思う。

(委員)

- ・映像の普及活動は、県民カレッジの大切な機能だと思っている。そのため本部と各地区センターが連携して、普及して欲しい思いがある。
- ・先ほど、現状等課題について説明を聞いたが、各地区センターにおけるカレッジわくわくシアターはどのような様子なのか、現状と課題的なものを教えて欲しい。

(地区センター)

- ・新川地区センターでは、月2回、わくわくシアターを行っている。ホームページのほか各公民館や地域の方には、回覧板などのチラシでも案内させていただいている。先月も2回の上映を行ったが、いずれも10名を超える方にご参加いただいている。
- ・広報の効果としては、チラシの方が大きい。新川地域なので近隣の黒部、魚津の方が多いが、毎回楽しみにしているリピーターの方もおられる。先日は、第1回目の映画がよかったのでお友達に紹介して、今度はお友達と一緒に来られたという口コミもあった。
- ・新川地区では、わくわくシアターは大変盛況であり、貴重な生涯学習の企画、映像を提供できる場となっていると思う。

(委員)

- ・映像センターが作っておられる郷土学習教材「技と心をつないで 越中福岡の菅笠」、昨年度の「昆布ロード 富山人のあゆみ」などの作品の質が高い。上映会にも出席したが、本当に素晴らしく、関心を持って見ている。
- ・図書館としてもこのような映像資料をしっかりと管理して、皆さんに提供していただけるようにしていきたいと思う。
- ・カレッジのYouTube、約5分の動画を先日見せてもらった。42タイトルあって、これもすごくいい取り組みだと思う。例えば、環水公園から岩瀬までの船での映像などこのようにコンパクトに紹介すると最近の若い人は、短い映像をよく見るようなのでマッチするのではないか。このようなスタイルで生涯学習カレッジの学習内容も紹介し、タイトルを増やしていくと、若い人たちも関心を持って見てくれるのではと思う。
- ・映像センターの映像作品は、本当に素晴らしい。

④会長が、現状と課題「4 学習交流や学習発表の支援について」意見、質問を求め、概ね以下のような発言があった。

(委員)

- ・キャンパスフェスティバルは、生涯学習で学んだことを発表する機会となっており、私が実際に行っている教養講座の一部の発表や教養講座以外の中から講師等が中心となって発表されるものがある。
- ・今年、従来、絵手紙制作などをやっていた方の都合が悪くなり、急遽、ブローチづくりに変更した。そのため参加者が減るのではと心配したが、70 歳以上の皆さんは、様々なことに興味関心があり、たくさんの方が参加してくれた。私たちが思っていた以上にやってよかったと思った。
- ・このような機会を設けるということは、とても大事なことではないかなと思っており、フェスティバルを通して、参加者を増やすような取り組みが出来たことは大変よかったと思う。
- ・教養講座も 70 歳以上の参加者が圧倒的に多い。60 代ってというのは、まだ働く世代だと実感している。80 代、更に 90 代の方でも参加しようという意欲がある。多様な生涯学習の機会は非常にありがたいといつも感謝している。

(委員)

- ・富山地区の生涯学習団体協議会に属している方々は高齢化し、活動を縮小、解散しているところもある反面、新しく入ってくる団体もある。新しい団体が加盟してくる大きな理由としては、地区センターを無料で貸してもらえ、県の中心であり利便性が高いことが活動拠点としてはいいとのことである。
- ・活動が継続されていることで、今年表彰を受けた視覚障害者のサポートをするボランティア団体の活動は、他県では活動が停滞しているようであるが、本県ではしっかりと活動が出来ている。このような団体を支援する活動を今後も続けて欲しいということを知っている。

(委員)

- ・高岡地区は、高岡市のウィングウィングで志貴野高校と一緒にステージ発表や展示発表をしている。この時は、たくさんの方が見に来られる。私達も活動を PR するためにステージ発表等を行っているがとても有意義な時間である。これらを通じて会員の方を増やしていきたい。

(地区センター)

- ・砺波地区センターでも他地区同様、キャンパスフェスティバルでステージ発表

をしている。作品展示では、生涯学習団体の作品や生涯学習の内容を発表する展示等をして参加していただいている。

- 生涯学習団体とは関係ないが、共学講座で高校生と社会人の方が一緒になって学習されており、その学習成果として歌やピアノ等のステージ発表をされることもある。
- フェスティバルに限らず普段の授業の中で、ミニコンサートみたいなものをしたり、高校生も一般の方々の非常に熱心な勉強ぶり、学習に向かう姿勢に感化されたりと非常によい効果が出ていると普段から感じている。

(委員)

- 皆さんのいろいろな意見やカレッジの活動をお聞きしていると私たちの活動にも活かせるところがたくさんあると思った。
- 映像センターで昨年制作された「昆布ロード 富山人のあゆみ」は、相当反響があった。特に地区の人たちは、婦人会の集まりだけでなく、他の団体でも上映したいというリクエストがあり、「昆布ロード 富山人のあゆみ」のDVDがここ2ヶ月ほど各所へ貸し出して上映されている。今後、まだまだ貸し出しの需要はある状況である。
- 今年の「技と心をつないで 越中福岡の菅笠」も大変楽しみである。富山県の誇りになるようなテーマを取り上げていただいているので、これからもこういう活動を続けていただけたらと思う。

(委員)

- 今年度の事業の報告を聞くことが出来て、私は大変嬉しく思う。一般の方が県民教授を担う自遊塾にしても、県民カレッジにしても、このような利用実績の伸びをみせているところは、全国的に珍しい。そのような生涯学習を支えているスタッフの皆様のお力添えには、本当に頭の下がる思いである。
- 特に今回、子ども向けの事業に取り組まれたと報告があったが、最近の多様な学びの場がある中で、県民カレッジも子ども向けの事業をうまく実施し、今回このような成果が出たのは素晴らしいと思う。
- 生涯学習は、学びっ放しではない。学んで、そして学んだものをどのように活用していくのか、成果を作っていくのか、また地域に還元していくのか、地域を豊かにしていくのか、人々が豊かになっているのかという展開に繋がっていくものである。あらゆる世代にどのように学びをサポートしていくのかというところが、この生涯学習カレッジの一番の仕事ではないかと思っている。
- 確かにニーズとしては、高齢者の方が多いが、あらゆる世代にというと現役世代はPRより、先ほど発言があったようにテーマが大事である。

- ・リスクリングにしても、何を取り上げるのかになると思うので、そこに事務局の皆さんの力、今まで蓄積された様々なデータ、ネットワークを活かし、新しい要素を加えながら、一步一步確実に講座を作り上げ、そしてまた、次年度素晴らしい成果の報告を期待したい。
- ・映像センターの活動は、今年は特に素晴らしい。あちらこちらへ行っても映像センターの話題ばかりであった。今まで知られていなかったということなのかもしれないが、今回のPRや取り組みは、本当に素晴らしい成果を出して、次につなげたと思っている。
- ・富山市の仕事で映像センターを使わせていただいているが参加者の皆さんが「今まで知らなかった」と声があった。今後、益々上り坂になってくると思う。この上り坂を下らないようにどんどん広めていただけたらと思っている。

(委員)

- ・この人口減少の中にあって、これだけの講座参加者数、頭が下がる思いである。
- ・文化振興財団も文化施設の運営に加え、コンサートや事業も展開しているが、やはり、年齢層が大きな共通する課題だと思っている。おそらく、参加する方の平均年齢は上がっていないのではないかと思う。定年等を迎えた方が次々に入ってきてこられるが、現役世代が入ってこないということが共通していると思う。
- ・参加者の年齢層を見ると大型講座は割と現役世代の方が多い。通年講座は現役世代の方が少ないという感じがある。どのような年代がどのような傾向の情報を得ているか分析をしていただき、各世代のニーズに合った事業展開が必要である。今後も連携させていただけたらと思う。

(会長)

- ・カレッジにおかれては、委員の皆様にお話しいただいたご意見、ご要望など十分ご検討いただき、今後に活かしていただきたい。委員の皆様方には、本当に実りある運営会議にさせていただいたことに深く感謝申しあげる。

○本江学長閉会の挨拶（要旨）

- ・本日は、委員の皆様にもいろいろな立場から大変貴重なご意見、ご助言を賜り感謝申しあげる。
- ・今年度から始めたこどもまんなか教室は、募集する時には人が集まってくれるかどうか非常に不安の中、開始した事業であった。今日の意見の中にもあったが、生涯学習の講座を受講してくださる皆さんの年齢層が高い方が多く、

現役世代が少ないという反省のもといろいろ工夫をした一事業である。

- 子どもたちやその親御さん世代、つまり現役の世代の皆さんにもこのような生涯学習の世界があるということを少しでも知ってもらい、我々の講座などを受講していただけたらという思いで取り組んでいる。
- 一方、今日の意見でもあった人生 100 年時代と言われる状況において、高齢の方々が自分の人生を気持ちよく学び、向上心を持って生きていけるようなお手伝いをするのも大きな使命であろうと思っている。
- 県民カレッジが昭和 63 年 10 月に開学して 37 年になる。委員の皆様方の意見や先ほどアンケートの結果の発言もあったが、参加された皆様方の声などを反映させながら、一層生涯学習の発展に寄与していきたいと考えている。委員の皆様方には引き続きご鞭撻のほどよろしくお願い申しあげる。

以上をもって運営会議を終了した。